

バストス週報

第百八十一号
昭和廿八年
九月二十日
発行

登録名義人
KOITIMORI
発行所
RUA
PRES.VARGAS
NO.188
BASTOS
編輯兼行人
織田糸吉
C.F.112

誌代
一年60¢
外部70¢

親

(道路 随想より)

親といえはすや子と言ふふうに親にと

つて子供程責いものはない。
白がねもこのがねも玉もなにかせんまき
れる宝子にしかめやもり大友家持の歌
のようた親にとつて子供は責いものであ
り又「焼野の雉子夜」の鶴「子を思ふ親の
心程真剣なものはない。そんなにな有難い
親もこの頃の民主化によつて親の權威が
失墜して親の言い分を子供が聞かなくな
つたとか、日本精神が蕪くなつたから親
を親とも思はないフラジル人になつてし
まつたから孝行を忘れてしまつたなど度
々聞かされる。

日本精神は孝行をして貰れる精神のよ
うに思つて居る人が案外多い様に思ふ。
尤も私達の子供の時の小学校教育は忠孝
の出来な非常に沢山の時間を費やし孝行
と教へられた。然しこのフラジルでも立
派な人間は親を大切に、世の中で最も
親しいものは親であると同じ信じている。
この國でも親を大切にしないような人
格者はない。六ヶ敷しい孝行の精神道徳
を説かなくとも世の中で最も親しいもの
は親であると言ふ觀念のある子供であつ
て貰れるはそれだよと思ふ。

地震、雷、火事、親父、父親とはほん
にこわいもの、地震や火事の次に恐ろし
いもの、親にしてしまわれれば、そこに
親の情、眞の親しみは無くなる。親し
みのない孝行があつたとしたらそんな孝
行はして貰いたくない。親としての望
みはどうか吾子が人に迷惑をかけない
な人物、常に良心の正しい判断によつて
總ての行為を行つて貰れる様な人間にな
つて貰れるはよいと思ふ。その就かしく
ない採な人物、正しい良心の判断を得さ
せるには教育に俟つ外はない。

親は自分を本位に考へて子供には孝行
をしてもらひ度い。そして自分の國の言
葉、日本語を子供に話して貰ひ度い。日本
語教育を受けさせたいと言ふ。何でも親
の都合のよい様に子供を教育したいと言
う。然し第二世の子供にとつては迷惑の
様である。親は日本語を習え、と言
うけれども、親は日本語を習え、と言
れだけ必要か、この國で生存して行く
上にそんな大切かと言ふ。実際外國語
があるからフラジルがよくなる、出
て来るからフラジルがよくなる、出
て来るからフラジルがよくなる、出

おいぶんらんぼうに着るんだが
着くづれがしないなね

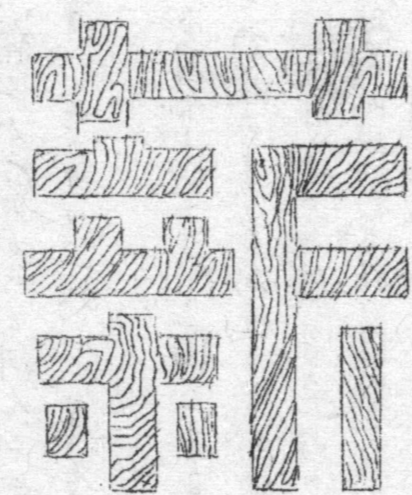
丸ヤマの服は。
バストス 丸山洋服店



日本語も出来ない事は結構であるがフラジ
ル語もよく出来ないのに日本語が少々位
出来てもそれはフラジル語の出来ない第
一世に劣る。
親が子供の犠牲になるのはよいが、絶
對に子供を親の犠牲にしてはならない。
自命子供はフラジル人だ、この國で生存
してゆくのだから、この國で生存するの
に不自由のない様に子供に充分フラジ
ルの教育をする事が親の義務であり、それ
が子供を幸福にする途だと思ふ。
子供に金や土地を遺してやるより教育
をつけてやる事が何よりの子供にのこす
よい遺産であると思ふ。(筆者、田辺景吉)

よいレンニア 特価で
御届け申上げます

LENHA



御注文は、お早目に

太郎田商店

長らくフラジルに住みついて居るホル
トガル人の子孫が大部分のところへナホ
レオンに追ひ捲くられて逃避して来た新
しい本國人、それもドンジョアン攝政を
中心とした宮庭人貴族富豪などの一派が
何万人とやつて来てリオンを中心として住
み始めたので、それからここに一種の磨擦が
起つたのは当然の世情でありませう。
事々に意見が相違するのみでなくホル
トガル貴族や上流人の態度の高慢さはフ
ラジル人に強い反感を抱かせるようにな
り、彼らと別な世界を起さうと遂に強烈
な獨立運動を計画させるようになりまし

獨立記念日 2
獨立前の政情と世情

た。恰もその頃南アメリカに起った各國の獨立運動及其成功がブラジル人に強い影響を與へたことは云ふ迄もありませんでした。

獨立運動といつてもイデオロギイの相違があつて、軍にホルトガルの政權から離れようとするものいや共和國でなければと主張するもの、必ずしも軌を一にして居らなかつたのです。

獨立革命運動を真先に実行したのはペルナンブーコの共和主義者で千八百十七年同州の知事を追放して一時仮政府を作るに至り、之が各地に波及してパライバ、リオグランデ、アラグアス、セアラ、及バイア等も不慮であつたが兵力の準備が出来て居なかつたので、結局官軍にやられてしまつて主謀者は捕へられたり処刑されたりして、あつては片づいてしまつたのでした。

欧州ではナポレオン一世が失脚し、ホルトガルとフランスは講和成立(千八百十七年)フランス軍はホルトガルから撤退した。その報が一と度ブラジルに傳はるやホルトガルから来た多くの皇族貴族上流人は非常な動揺した。一日も早くヨーロッパの華やかな生活へ帰り度かつたのです。ブラジルの殺風景な植民地生活がセリ切れなかつたのでせう。

またホルトガル本國としても、政府がブラジルにいつ迄もあつたのでは本國は衰微してしまふので首府をリオからリスボンに移して貰ひ度いといふ運動が成功し、ドンジョアン六世(千八百十八年即位)は千八百二十一年白毛太子ドンペドロを攝政としてスラジルのこし、遂にホルトガルへ帰國致しました。此の頃の油繪を数枚(複製)見ましたが汽船こそ旧式ですがその旅行の豪華さといつたら實に今日吾々の想像も及ばぬ程度のもので、カバソに柳行李の移民旅行とは桁の外れて大が、リなものの様であります。

ドンペドロ スラジルの民情を知る
ドンジョアン六世がホルトガルへ帰つたのち、スラジルの元の植民地となりスラジルの之を治むなかつた。二三十年の間に長足の進歩急歩の繁栄とよしたのに、植民地では本國の政情や事で、利益は本國にとり上げられて又々経済的の苦しみを見なければならぬ。植民地としての長年の苦しみにはもう飽きた。獨立々々の声が期せずして全ブラジルに行き届く様になりなりました。

本國に帰つたドンジョアン六世は間もなく白毛太子ドンペドロの帰國を命じたので、かねてドンペドロを國王としてスラジル獨立を計畫中であつた一派は奮然してスラジルのこし、といまるよう申請書

を差去した。ドンペドロは頗る迷つたが遂にスラジルの熱誠に動かされホルトガル行を断念し、その意をさばつてミリスに上りました(千八百二十二年)

イピランガの丘

獨立問題では各地の意見が一致して居なかつたのでドンペドロは一段協力の必要を痛感し、千八百二十二年八月サンパウロを訪問して同地の團結を計り更にサントスに赴き、充分な協議をせよとほめた。サントスより聖市への帰途、イピランガの丘にさしかかるととき、リオから急使が来て居る手紙を渡したのです。一通は、本國へ早く帰つて来いといふ命令書。他の一通は、ドンペドロの相談役、リオのジジセホニシオから「かくなりましては一日も早く獨立の御決心を」といふ希望の手紙。ドンペドロは遂に意を決し、其場を去らず、かぶつていた帽子からホルトガルの房飾りを引きちぎつて地に投げつけ、「獨立か、死か」と叫んで獨立を宣言したのです。その日は一八二二年九月七日でありました。

ブラジルが本國ホルトガルから獨立するに至つた事情は大方前述のようであります。他の國々、南北米の諸國が本國から獨立した時の事情、即ち本國から植民地扱いにされ、採取されるのさういふ点に於ては共通するものがありましたが、政情に至つては甚だしく相異点があつたように思ひます。他の諸國が獨立後直ちに共和制を布いたのに反して、ブラジルはドンペドロ一世の即位によつて帝政をもつ國體としてお薦して居ます。更に及嶺を、ゆるがへたとは云へ、ドンジョアン及ドンペドロは父子の間柄であつた点、その辛辣に於て、大へんなごまかさがあり「獨立か死か」と叫んでもそこ一種皇族の科白めいた氣安さを感しないこともないようであります。獨立後のスラジルの、こんなユースを辿つたが、もう少し筆を進めて見ませう
(M人) フック

一金五百針也

右は貴下今回リオ州に移転せらるるに當り長年御世話になつた印にて、病院に御寄贈下さつた事を厚く御礼申上げます。

一九五三年九月八日

バストス聯合 日本人會

元スロリア工區在住

溝口慶一殿

知らない間に自分のものになる

コルシヨンドエローテ

コルシヨンドエローテは贅澤ですか？
ご冗談でせう、それは十年も二十年も昔の事、
今では、どの御家庭にも、なくてはなりぬ品！

仕事で疲れた体を休め……
客扱いで疲れた体を休めるには
何を指してもコルシヨンドエローテが一番です
○コルシヨンドエローテは安い！

フエーラ ドラール會社の
保険附の高級品、それで價格が安い、
一番簡單な買ひ方は毎月百軒宛支拂つて
入する月賦販賣に加入して下さる事です

○福引のおまけがつきます
皆さんが最初のバケメントをして下さると同時に番
号入りの債券を差し上げます。毎月未抽籤があつて
此の番号により百人に一人の割合でコルシヨンドエローテが当ります。
更に一等入百五十コト、二等九人二十コト、
の大當りがあるのです、
僅か百軒宛の月賦で毎月の抽籤を楽しみつ、
いつの間にか御待望のコルシヨンドエローテが入るのです

○月賦は面倒くさい？ 成程
そういふ御方には全額一時拂ひ、品物も時を
つまずお手持へ。そして抽籤の権利は規定
通り十八ヶ月づつわけ、車運に見舞はれま
すと、もう一つコルシヨンドエローテが、更に
百五十コトの賞金が飛び込んできますか？

○何と面白い方法ではありませんか
どうぞ皆さん、明日と云はず今日すぐお申
込みになつて、此の車運をつかもうではありま
せんか？
バスターズの代理人は？
バスターズ商業事務所の
戸田 幸

どうぞ御来談下さい

尋ね人

植村六郎 (音譯元マリリア在居住)

此の方は今、バスターズに居られる相ですが、御存
知の方は知らせてあげて下さい

州税の事で、至急コレトリアにお願される様もし
打捨てると、ツパンの裁判所執達吏役所に書類
が回附され、大変迷惑されます
バスターズ商業事務所又は
週報社へ……

大貫君の大車駄天

去る九月十二日夜、ツパン体育協会支部で執行
された市中五キロのマラソン競走には各方面の
参加者十数人を数へたが、バスターズヨリの出場選
手六名中、理事三名入賞した。就中大車駄
天大貫君の疾走ぶりは一ときわ群をぬき、あつ
たれマラソンバスターズの名を馳せかしのなかつた。二
等にはマラソン俱樂部が喰ひ込んだが、ついで三番
四番ともバスターズ選手で大いに郷党の鼻を高くした
入賞者たの如し。

- 10: Moriyoshi Onuki Baster
- 9: Antoniu Faiceira Malaya Yu
- 8: Shozo Yaguiwira Baster's
- 7: Mitsuo Jogyo La Baster's
- 6: Washington Jomra Nisei
- 5: Benedito Randa Radio Blake
- 4: Nelson Monais Gino de Guira
- 3: Tokurichi Abe Nisei
- 2: Gilson Colégio Barbosa
- 10: Antonio Barbara Neoyapan

州体育局主催

総合競技大会

十月十、十一日 ジュンジャイにて開催
来る十月四日よりジュンジャイにて開催する州体育
局主催の総合競技は陸上、籠球、水泳、西洋
将棋、自転車競争等であるが、バスターズより
十、十一日開催の陸上競技へのみ出場することと
なり目下選手選手中であるが、出場人員現
定は男二十五、女子一〇、役員五、計四十名である
尚大会終了後十二日はカンポナス附近を視
察して視野を広げる計画もして居る由。

御礼

四年目に全伯大会出場権を得、皆様の
大応援裡に勇躍紅途につきまされたが成績
は新聞紙上を發表にたつた通りです、全力を
こめて戦ひましたが、準決勝で敗れました。御後
援の皆様には誠に御礼の辞を致します

バスターズ野球団監督 徹

又各 位

サンパウロ野球随伴記

車中 K O

昨年度の全伯の覇者オックスを打倒し、パウリスラ線代表としてサンパウロの檜舞台へ駒を進めることになった我がバスターズ野球チーム、西監督を始め選手にスコアラーといふ名の私も加へて総勢二十二名「勝つて来いよ」と勇ましく「激励されて九月二日午前八時五分、バスターズを乗せた。今年こそ是非が非でも勝たねばの意気は一同の眉宇の間に溢れて見るからに頼もしい。ホンペイヤを通過する頃持参の弁当を片付けてしまふと一同急座して、あちりへワウ〜、こちりへワウ〜、取頭に立ちあがる伯人娘へ投キッスのまねをしたりして、バウルに着いたが不幸にしてカールツヨの座席は予約がない為めに来れず、十五分遅れて普通車に乗る。夜の十時四十分頃聖市着るとまだある。つまり十五分後に出て、四時間遅れる動定になるのだが、判りにくい計算のようだ。時間はかゝても仕方がないが晩めしにありつけるかどうかが当面の問題なので、念の爲めに準備すると、食堂車はつかぬとある。その代り此の列車は乗客が少なくて借ゆりといふ感で、気兼ねがなくタテになつたり横になつたり、のど自慢を始め騒ぎや賑やかなこと頼しい。六時頃ジャニター代りにサンパウロ「三等列車よりいよいよ」マツトスワソ行きの移民列車だ。などと同行の口の悪い松本ジャニター氏。とうもろこし等お米民族は一食お米を欠かしても、すぐおなかの調子がへんである。若い選手たちも強き儘まで眠つてゐるのが多い。私もバスターズ枕にうつり〜と舟を漕ぐ。

十時四十五分入着、山根、園田、西氏を始めバスターズ出身の出迎へを受け直ちに岡田旅館へ。二年振りの大都会、なつかしいサンパウロ。一か一宿をソロ〜とうとんとす、ついで寝たつたのは午前二時。

球場風景

明ければ三日、場所馴れの爲めカンホへ出かけ、やアおうと掛声あましく元氣をつけたが、旅疲れが償不足か、皆まだ体が重いようだ。アサイ、ラビンニアのチームも来てゐた。

九月四日は八時〜九時がバスターズの練習時間、午後はよそのチームの練習拝見

主将会議の結果トーナメント採用、バスターズは五日の第四試合にウ、フランテと組合ひ、それに勝てば準決勝でラビンニアと組み、その次は決勝！一同わア〜と歓声あましく、氣すでに宇宙を呑む。

バスターズ出身者が次々と訪ねてくれて賑かふこと。五日は終、全伯野球大会、サンパウロ対アサイ。パナリア氏の姑球式による火蓋がとられた、二対一でサンパウロに凱歌が揚る。バスターズ対ウ、クラントは十対一でバスターズ優勝。

翌六日早朝遠雷しきりに鳴る。九時半入場式、処が水模様、怪しくなり、優勝旗、至返運、野登美副会長前会の挨拶、蜂谷寿一氏挨拶、バスターズ佐伯主将の宣誓文朗読、……その時ホ〜と大雨。見物し選手もバウラネットのアルキバンカ〜へ殺倒、大雷雨である、いっせむとも知らぬ物凄〜に砂降り、カンホはラゴアのようになつてしまつた。ゴヤトライラが跳ねるとこ、これでは野球にならんので、十時頃雨は止つたが試合中止の宣告があり吾々も宿へ引取つた。

かくていよいよ七日となる。我が生涯の輝ける日たうんと勇躍出場したが、ついに及対に、我が生涯の初めの日になつてしまつた。試合の経過は新聞を見てこれ給へ、兎に角勝運に恵まれぬといふことは人間の努力や意志の力ではどうにもならぬものだと、ふとき、あの試合で痛感せしめられた。両軍共にチャンスは三回あり、公平に見てバスターズに有利であつたんだが、……野球は、しまいに……のつきた。 (以下次号)

皆々へ

御待ちかねの

バスターズ入植二十五周年記念

大寫真帖

予定よりだい分繰延しまして申わけ御座いません、聖市の大節電が、こういふ方面に逆差つたので御座います。しかし念々此の月末には新装を凝らして御自見することになつて居ります。ご、ご、御期待下さいませ。

發行所 バスターズ市

コメツタ 寫真館

開設當時をふり返る

10 畑中仙次郎

様業さんのフロミン生活も相当永かったのだから同行の快諾は得たものの家政の整理や色々と仕事に都合もあって当地着任は少々遅れ家族の方も俄かに移転も出来ず永らくクワタ市に仮住ひして待機。一家を養育しての引越は昭和五年の二月頃で椰子の柱にトコ多葺き、土間の假住宅に入って貰った。當時は事務員住宅や急を要する建物が多かつたので、私の家族も入るに家なく、昭和四年の五月末に平野植民地を立つてカウクワタの借家住い八ヶ月、漸く六軒長屋が出来上ったので其の隣り家に入ったのが翌年の一月、松本さん一家は其の時既にその長屋に来て居られたので移住地で家族揃ふて初めてのジヤンタを頂いたのも思ひ出の一である。かくして開拓も緒につけ仕事も益々多忙になりつ、あった。当時唯一の相談相手を得て、事務所も大に強化せられた訳である。フラジル生活の初頭に当り、カクタバラ耕地に於て鍛え上げられて身につけた。当國に於ける事業経営の実際や人事の扱ひ方等の体験は私の一生を通じて抜け切らないものと思ふ。元時と場所が異つても其の癖があるものであるが、私は強ちカクタバラ大耕地(操業さえも同耕地で平野さんの処に居られた)の水も浅さぬ激しいエテマを真似たとは思はぬが何分にも限定せられた期日迄の植民者の受入れ準備や旧移民の入植促進教育衛生、産業上の諸施設等面倒なる仕事が一時的に殺倒したが、何となく支障を来さないように取計らわれぬはならないので、支等仕事の進捗に付いては無我無中で働いた。朝は未明に、夜は燈火の下で事務員一同が集つて其の日の出来事を再検討し、明日の採る可き仕事に對して、色々と案を練つて各人の役割を定めて、はじめて寝につくとさふような事が凡そニヶ年位はついでであらう。が当初家族が移転して来る迄は操業さえも私も事務所の一室に居を構えて復食を共にしたのである。私はそれ以上の洗礼を受けて来て居るし重い責任を何んとかで果さねばならぬ

農家手帖



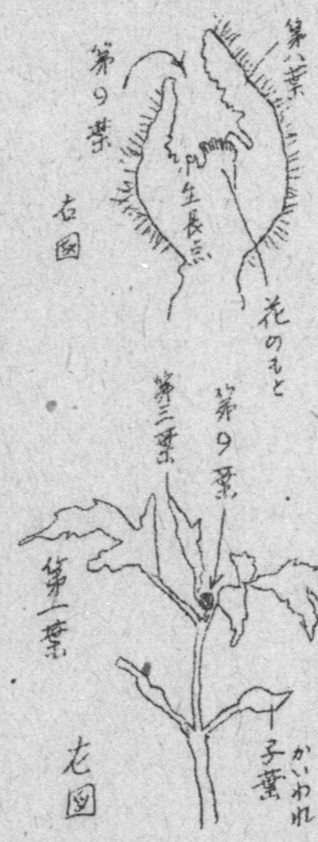
花になるものは

いつごろからできる

のだらうか?

花が咲きはじめた、よく実がみのるようになってそれから、いろいろ手を加へても、ちよつとおそい。と云ふのは、それよりずっと前に、からだの中には、花になるものができておるからである。例へば、トマトについて、ある教授が見たところによると、もうすでに、苗床にある小さい苗のころ(図の花)に第一の花のもと(此の場合には花房になる)ができているのである。普通だと種子をまいて、三十日より少したった位の大きさで、本葉がやうと四枚前後、開いたころのものである。眼ではみえないが、図の右のようにながれ、美しい花のもとが、茎の先端についている。よく見ると、八枚目、九枚目の葉も小さいから伸び始めている。

トマトばかりではない。花を咲かせて実をとるものは、それだから、花が咲いてから、あわてることなく、花のもとができる前から、からだを丈夫に云月のように十分手を加へておく、必要があることも判るだろう。(東大助教、川田信一郎氏、週刊朝日より)



念腹句集より

汲み終へし深井に流れ春惜む、
牧の柵ぐり出て汲む春の水
小うるさき、最合の井戸の涸れにけり

一夜 學子

十三歳以上の子供さんで日本語の勉強をなさる方を御教へ致します
市外の方には、時間的に便宜を御計り致します

矢野 俊 平

と覚悟して居るから、これを当然の事のように
うに思つて他の者の意中も察せず、馬車馬
の如く遠く二進一退のみに専念して、
サ、
申す道もなく相当苦勞を経て来た人でも
随分迷惑に感じられた事である。うと思つ
て、
平もあつたであらうと心算かに懸念せぬ
でもなかつた。然し橋本先生は異心偏見
私の意中を良く洞察して如何なる面倒が
出来ても平氣な喉ひで常に先頭に立ち着
事、
主眼でやろうと号令をかける。然る中、
ハ、
結局は、
（此の稿のついで）

樹木の日

九月廿一日は不ラジルの愛林日である。
特に聖市のような大都市や農林に關係の
ある役所所在地では實際に華々しい運動
が行はれるといふことである。
奥地では地域全体がマツトであつて、植
るに、
為め、
た、
出、
大、
や、
に、
瘠、
放、
事、
か、
ろ、
何、
徳、
は、
け、
伴、
と、
く、
は、
取、
が、
奴、
が、
は、
の、
打、

おわび問答

S「ラビンニアの二戦は惜しかったが、
N「立派な選手、若い闘志満々の選手が
揃えて居る。優勝に違當さつて、
か、
御、
て、
S「
ん、
る、
N「
れ、
優、
つ、
際、
ん、
も、
ト、
S「
つ、
イ、
選、
一、
い、
高、
は、
を、
か、
N「
会、
さ、
激、
が、
S「
同、
と、
で、
は、
下、
ら、
す、

聖市行

汽車のオアリーヨ（九月一日より）
イ、
バ、
イ、
バ、
オ、
バ、